

第5学年「家庭」学習指導案

授業者 築地 晶子

2月21日（土） 家庭科室 9:00～9:40 （話し合い・協議会 10:00～11:45）

1 題材名 ミシンで変身（ウォールポケットづくり）～ 衣生活の持続可能性について考える ～

2 題材について

題材目標	・ウォールポケット製作の手順や仕組みが分かり、その材料として古布などを集めたり生かしたりする良さを理解し、製作したウォールポケットを身の回りの整理整頓に役立てることができるようにする。製作においては、手縫いやミシン縫い、ポケットにする布の種類や大きさを、目的に応じて適切に選択できるようにする。 ・ウォールポケットの製作計画や身の回りの整理整頓の仕方、持続可能な社会と衣生活との関連を考え、主体的に取り組んだり、改善したり工夫したりして実践し、解決しようとしてできるようにする。
------	---

子どもたちは、1～2学期にかけて手縫いで行う裁縫を学び、本題材よりやや先行する形で、ミシンの扱い方を学び始めている。ミシン縫いの練習のために台拭きを作るが、本題材のウォールポケットはデザインから自分で考える最初の作品である。本題材の前には、住まいの領域で整理整頓に取り組み、そのコツを各自でまとめている。そこで、ウォールポケットのデザインを考える際には、自分の整頓に役立てるという視点をもてるようにしたい。持続可能な社会については、家庭科の学習の一環としておにぎりアクションやフードドライブを経験したり、本学学生給食に関わるフードロスについて教えてくださったりする機会を得ている。本題材では、廃材となる布を活用するねらいがあるため、事前に保護者や子どもたちには、不要となる布や布製品があれば残しておくことを呼びかけている。このような経緯を踏まえ本題材は、「衣や住の生活」と「環境」のそれぞれの関連を図った内容とする。

これから子どもたちが生きる未来は、持続可能な社会について考え、向き合っていくことがますます重要で、社会の仕組みや一人一人の行動について変容が求められることもより当然となるだろう。小学校家庭科としては、その意義や価値を伝えつつ、体験的・活動的な学びを通して、子どもたちの未来に繋がる市民性を育むことを目指している。

3 学習指導計画（4時間目／全10時間）

第1次 布製品のSDGsを考えよう …3時間 本時3/3時間

第2次 ウォールポケットづくり …6時間 ※第1次と第2次は並行して進めています。

第3次 ふりかえり …1時間

4 本時の学習について

（1）本時のねらい

（2）予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1. 布は何からできているの？（確認） ・ウール、シルク…、植物性のものと動物性のものがあつた。 ・あと石油。石油はどんな布にもなるのがすごい。 2. ペットボトルから綿を作ろう ・固いペットボトルが、柔らかい綿になるなんて、びっくり。 ・触てみると、本当にふわふわした綿みたいだ。不思議な感じ。 3. 布製品のSDGs（持続可能性）を考えよう ・着られなくなった服は、できるだけ兄弟や親戚にあげて、捨てないようにする。 ・石油にも限りがあると思うし、カイコとかの動物から作るのも可哀想な気がするし、今まで思っていた以上に問題だと思った。	・前時の学習から、植物性／動物性／再生／合成の繊維が原料となっていることを確認するが、深め過ぎない程度とする。 ・石油は布の原料となるだけでなく、ペットボトルの原料でもあることを、小学生なりに理解できるよう支援する。 ・アルコールランプの扱いをはじめ、実験に伴う危険性や使い方について事前に指導と確認をする。 ・子どもから出される意見は、正解や不正解を判別するのではなく、肯定的・否定的なもの、前向き・後ろ向きなもの、現実的・非現実的なもの、色々な考えが出されても受けとめるようにする。

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

小学校家庭科における持続可能な社会の学習について、特に布製品（衣生活）に関する授業での扱い方や工夫について、児童の様子を踏まえて考えたい。